

日本学術会議

中国・四国地区会議主催 学術講演会

地域にある大学としての 先端学術の振興と地域産業 イノベーションへの貢献

2020年11月21日(土)

○ 会場参加：定員50名
愛媛大学 城北キャンパス
グリーンホール（松山市文教町）

○ オンライン参加

会場参加・オンライン参加ともに
事前申込み（下部URL）が必要です

全国の86国立大学の中で、主に地方にある55大学は、文部科学省の重点支援枠①（主として、人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組とともに、（中略）強み・特色のある分野で世界ないし全国的な教育研究を推進する）を選択し、主に「地域貢献型」の大学としてさまざまな取組を行っている。しかし、世界的な先端研究を展開している研究グループも存在し、それらのグループの「キラリと光る」世界的成果は、大学の本来の姿として不可欠なものである。

本講演会では、地方大学の一つとしての愛媛大学が、「先端研究」と「地域創生に繋がる応用研究」をどのように展開しているかを共有したい。また、今後の大学運営との関係で、これらの方向性が異なる研究をどのように発展させていくべきなのか、考えたい。

13:30～ 開会挨拶

日本学術会議副会長 菱田公一（明治大学研究・知財戦略機構：オンライン）
愛媛大学長 大橋裕一

13:50～ 愛媛大学における先端学術研究の展開とリサーチユニット

宇野英満（愛媛大学理事・副学長・先端研究・学術推進機構長）

14:15～ 愛媛発イノベーションによるマラリアワクチン開発への貢献

坪井敬文（愛媛大学プロテオサイエンスセンター長）

14:50～ 地域にある大学による「地方創生」への貢献

仁科弘重（日本学術会議第二部会員、愛媛大学理事・副学長・社会連携推進機構長）

15:10～ 休憩

15:25～ スマの育種完全養殖が切り拓く未来

後藤理恵（愛媛大学南予水産研究センター准教授）

15:55～ 医療検査・診断用ペーパーデバイスの開発

内村浩美（愛媛大学紙産業イノベーションセンター長・特別荣誉教授）

16:25～ 高精度生体情報計測が可能にするSociety5.0の農業生産

高山弘太郎（日本学術会議第二部会員、愛媛大学農学研究科植物工場システム学コース教授）

16:55～ 閉会挨拶

日本学術会議第三部会員・中国・四国地区会議運営協議会代表幹事
相田美砂子（広島大学：オンライン）



申込み先QRコード

申込み先：<https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~scj2020/mpmailec/form.cgi>

問い合わせ先：愛媛大学社会連携課総務・企画チーム（renkei@stu.ehime-u.ac.jp）